

南山大学創立五〇周年記念号に寄せて

南山大学長 ハンス ユーゲン・マルクス

この度、私どもは南山大学創立五〇周年にあたり、本誌を記念論文集として発刊する運びとなりました。本学は、カトリックの「神言修道会」により、一九四九年に設立されました。当初は文学部のみからスタートしましたが、その後、大学付置研究機関や新学部、新学科が次々と設置され、現在では五学部・一五学科を擁する文科系総合大学へと成長しました。そして、創立五一年目にあたる来年、すなわち西暦二〇〇〇年という大きな節目の年に、南山大学は、瀬戸キャンパスにおける二つの新学部の設立、また名古屋キャンパスの既存学部学科の大幅な改編によつて、全国版総合大学への成長に向けてスタートする予定であります。したがって、私どもにとつて、創立五〇周年というのは、本学のこれまでの歩みを回顧し、今日の発展をもたらした先輩方の努力に対して感謝と敬意を表する機会であることはもちろん、私たち自身が、大胆な改革精神をもつて本学の更なる発展に寄与する決意を新たにする機会でもあります。いや、むしろこれこそ先人たちに対する相応しい敬意ではないかと思われれます。

さて、一八歳人口の減少に伴い、志願者数と入学者数とが均衡するいわゆる「全入時代」を迎えつつある現在、「選ばれる大学」とは、教育内容の質によつて決まってくるのは必至であります。本学はこれまで受けてきた評価に甘んじることなく、教育・研究の内容と質の向上を目指して努力しなければなりません。質の高い教育は、言うまでもなく質の高い研究に裏打ちされたものであるはずで、教育内容の充実、個々の教員の旺盛かつ創造的な研究活動なくしては達成しえません。

大学としても各教員の研究活動を支援するシステムの向上に今後とも努力していききたいと思っております。このような研究活動支援システムの一環として、本学は「南山学会」という組織を設けています。年数回の研究発表会やシンポジウムの開催、また研究書の出版助成のほかに、南山学会の紀要『アカデミア』の編集・発行、さらに『南山国文論集』、『南山神学』、『南山経済研究』、『南山経営研究』、『南山法学』といった学部ないし学科独自で編集・発行される学術誌の出版助成が本学会の主な活動内容となっています。このような支援のもとに、本誌が南山大学に、より質の高いアカデミカルな環境を提供することができるよう期待しています。